

根拠に基づいた卓越性の構築

Building Excellence Through Evidence

L. Aiken 翻訳 叶谷由佳 山形大学医学部看護学科地域看護学講座教授

世界の看護職の職務満足度、バーンアウト、離職希望

看護ケアのアウトカムに関しての国際的な流れとして、まず、International Hospital Outcome Study (IHOS) についてご説明します。IHOS とは、病院組織と看護職員配置や患者のアウトカムとの関連について研究することを意図して行なわれた研究プロジェクトです。ペンシルバニア大学看護学部が中心となって、アメリカ、カナダ、イギリス、ドイツ、ニュージーランドの5か国が参加しました(その後、スイス、ロシア、アルメニアで、追試験実施)。これら5か国約600病院の約5万人の看護職を対象に調査し、数百万人の患者のアウトカムデータを入手しました。そこから、看護職が質の高いケアを提供するためには、現在の看護職員配置では不十分という結果が得られました。

さらに、ドイツを除く4か国の看護職の1/3から半数がバーンアウトに陥っており、40%以上が仕事への強い不満を訴えました。アメリカとカナダでは、約半数が「病院のケアの質は低下している」と答え、ニュージーランドやイギリスでは1/3が同様の答えをしました。ドイツが外れ値である理由は、1999年時点で、ドイツの入院日数が最も長いことにより他国と比較して業務量が少ないことによります。また、この調査に参加した看護職の4人、もしくは5人に1人が「翌年病院

を辞める予定がある」と答えました。

看護職の人員配置数と離職希望の関係、および患者アウトカムへの影響

私たちが Journal of the American Medical Association (JAMA) に発表した論文で、看護職1人で、1勤務帯あたり4人の患者を受け持つ病院に比し、8人受け持つ病院では、看護職の不満は有意に高く、高度のバーンアウトに陥っており、「満足している」看護職の4倍も多く離職を検討していました。

また、看護職1人あたり患者4人の病院と患者8人の病院との間では、一般外科手術患者の死亡に31%の相違がありました。アメリカでは毎年、一般外科手術患者が400万人いるため、単純計算で、全病院が看護職1人あたり患者4人の病院は、8人以上の病院よりも、毎年2万人の生命を救うことになります。

さらに、臨床において、大学教育を受けた看護職の割合が多い病院では、患者の死亡率が有意に低いという結果を得ました。アメリカの病院看護職のうち、大学教育を受けた看護職が10%増えるごとに6%死亡率が下がるという結果でした。

人員配置や看護実践環境の看護職定着 および患者のアウトカムへの影響

看護職の満足度や定着の重要な要因として、「人員配置の適切性」「看護をサポートするトップマネジメント」「看護職のキャリアサポート」の3つが挙げられます。私たちがIHOSで、これらの要因について調査した結果、よい看護実践環境は看護職のバーンアウトが少なく、不満も少ないことがわかりました。一方、乏しい看護実践環境の病院では、バーンアウトと不満がいずれも最も高いという結果でした。

さらに、よい看護実践環境は、よい患者アウトカムに結びついていました。環境が乏しい病院では、「患者の退院時に退院の準備ができていない」、もしくは「患者が抱える問題が解決された」と答えた看護職の割合が低いという結果でした。

これらから、研究対象とした5つの国において、適切な人員配置、看護実践環境は、看護職の定着と良好な患者アウトカムにとって重要であるという結論に達しました。

マグネットプログラム

私たちは、Magnet recognition プログラム(以下、マグネットプログラム; 詳細は www.nurse-credentialing.org)と呼ばれるアメリカで開発されたプログラムの有効性について根拠となるデータをもっています。アメリカにおいて、看護実践と管理の一定基準を満たしたマグネットホスピタルとそれ以外の病院を比較した際に、マグネットホスピタルは実質的に専門性が高いという結果でした。アメリカのマグネットホスピタルでは、実際に看護職の定着率の増加と看護職不足の問題の減少が見られました。

そこで、イギリスの Rochdale にある National Health Service(NHS)病院にマグネットプログラムを導入しました。その結果、看護職

の不満は実質的に減少し、ケアを「優れている」と評価した看護職の割合は上昇しました。他の NHS 病院の看護職のうち、「ケアが改善した」と述べた看護職は 20% しかいなかったのに比し、Rochdale の NHS 病院では 40% に上りました。

現在、このマグネットプログラムが、異なった経済状況の国で機能するかを確かめるために、ロシアとアルメニアの計4病院においてパイロットプログラムを導入しています。現在、3年のデモンストレーションの1年目であり、基本となる情報収集を行ない、アルメニアとロシアにマグネットホスピタルをつくりました。その結果、それらにおいて医師と看護師関係の劇的な改善、看護職満足度の上昇、ケアの質の高い評価を得ました。また、死亡率の低下、患者の可動性の向上、低い合併症、患者満足度の有意な上昇も見られました。さらに看護職満足度が有意に上昇し、全体のコストも低下しました。いまやこのプログラムはアメリカ以外のどのような場所であってもよく機能するでしょう。

看護のグローバリゼーションは、問題解決への糸口

看護はグローバルな集団です。看護職が直面している課題は、環境資源や保健医療制度が異なっても非常に共通しています。世界の看護職が共通して抱える看護職不足、また低い質のケアの問題解決に結びつく根拠となるデータはいまや増えています。これらの目的を達成するためには、国際的な研究と研究資金、他国で開発された看護実践環境改善モデルを他国で再現できるような開放性、国際標準的な政策が構築されることが重要です。

(本稿は、2003年6月27日、ジュネーブで開催された The International Council of Nurses での講演を要約したものである。)